

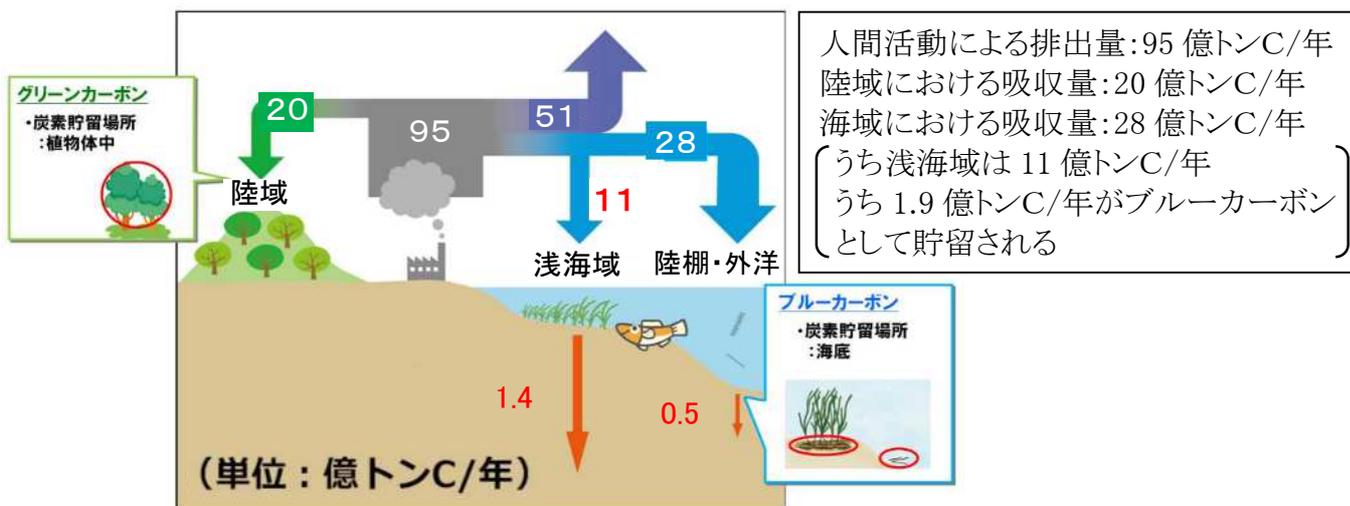
## 三河湾ブルーカーボン推進事業について

### 1 ブルーカーボンとは

2009年10月に国連環境計画（UNEP）の報告書において、藻場・浅場等の海洋生態系に取り込まれた炭素が「ブルーカーボン」と命名され、吸収源対策の新しい選択肢として提示された。

ブルーカーボンを取り込む「ブルーカーボン生態系」として、海草藻場、海藻藻場、湿地・干潟、マングローブ林の4種類がある。

#### <地球上の炭素の循環について>



出典：ジャパンプルーエコノミー技術研究組合

### 2 三河湾ブルーカーボン推進事業

#### <事業目的>

三河湾における藻場の効果的な造成手法の知見を得る。

#### (1) 生育条件調査 (2023年度 当初予算額 3,322千円)

実証実験の候補地の選定のため、生育条件調査を、三河湾内の3箇所（南知多町、西尾市佐久島、田原市）で実施

#### <調査結果の概要>

地点 【調査日】	南知多 【2023. 10. 24】	西尾市佐久島 【2023. 10. 23】	田原 【2023. 10. 22】
海草の生育状況	無	有 (アマモ)	有 (アマモ)
生育場所の水深	—	0 ~ 2 m	0 ~ 1 m
波浪の強さ (「弱」が適)	強	弱	弱
底質の特長 (「砂」が適)	砂	砂	礫 (小石)

実験対象地として以下の2地点を選定した。

- ア 南知多町 (波が強い環境における増殖手法の検討)
- イ 西尾市佐久島 (生育条件が最も良い)

## (2) 実証実験 (2024 年度 当初予算額 14,281 千円)

三河湾に適した藻場の効果的な造成手法の知見を得るため、2023 年度に実施した生育条件調査の結果に基づき、増殖実証実験を行う。

### <実験方法の概要>

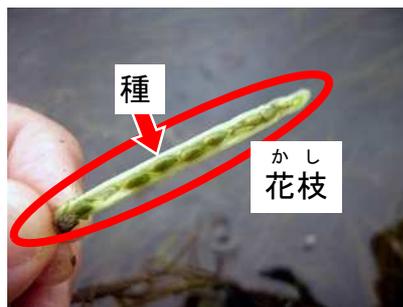
#### ア 種をまく (播種) 方法

##### (ア) 種の採取 【5月下旬】

田原市において職員により採取した。



採取の様子(2024. 5. 25)



アマモの種 (花枝ごと採取する。)

##### (イ) 発芽を促す処理 (追熟) 【6月~7月(予定)】

愛知県水産試験場の水槽において種を追熟する。追熟した種子は、腐敗した花枝等とザルで選別した後、種まきまでの間、冷蔵庫で保管する。



ネットに入れて水槽で追熟



選別作業

##### (ウ) 種まき (播種) 【10月~11月(予定)】

粘土に種を埋め込み海底に埋める「粘土法」、麻袋に土と種を入れて海底に設置する「麻袋法」等により行う。水温が 15℃以下で発芽するため、発芽前の秋に行う。



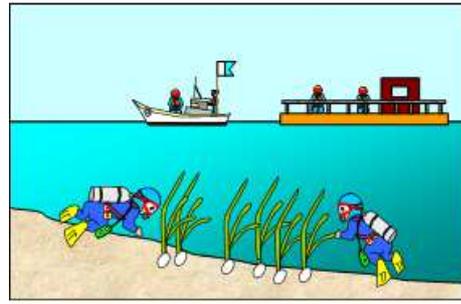
粘土法



麻袋法

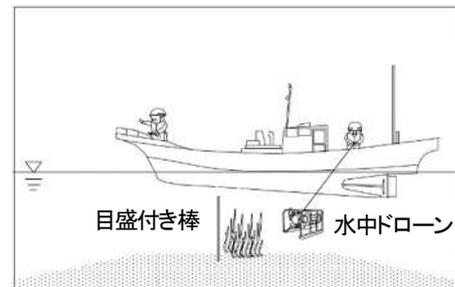
イ <sup>かぶ</sup>株そのものを移植する方法（株移植） <sup>かぶいしょく</sup> 【1月～2月（予定）】

移植に適した冬に、アマモの株を採取し、根茎部を粘土で包み、移植する。



ウ モニタリング 【1月～3月（株移植の2～3週間後）】

水中ドローン等を使って、アマモの生育状況や生育環境等を調査する。



3 ブルーカーボンの取組拡大に向けた本県の課題

- 県内の藻場の状況把握
- 実証試験を踏まえたアマモ場造成手法及び適地の選定
- 漁業者、企業、NPO等、多様な主体による藻場造成・維持の体制づくり
- 藻場造成を行う主体への支援
- クレジット創出・購入の活性化に向けた企業等への普及啓発

(参考) J-クレジットとJブルークレジットの比較

	J-クレジット	Jブルークレジット
運営主体	国（経済産業省、環境省、農林水産省）	ジャパンプルーエコノミー技術研究組合
認証されている分野	省エネ・再エネ、廃棄物、森林など （ブルーカーボンはなし）	ブルーカーボンのみ
温対法での活用※	可	不可

※温対法での活用：温対法で報告が義務付けられているCO<sub>2</sub>の排出量の埋め合わせ（削減量）として、購入したクレジットを利用できる。